

巨樹いしかわ 2008 No. 39

創立20周年記念号



目次

表紙 本堂城跡の大ケヤキ

平成20年度（創立20周年記念）総会

挨拶 石川県巨樹の会会長……………田中 敏之… 2

祝辞 石川県農林水産部長……………勝山 達郎… 3

石川県緑化推進委員会理事長…渋谷 亮治… 3

全国巨樹・巨木林の会会長…菅沼 孝之… 4

ひたち巨樹の会会長……………川上 千尋… 4

平成20年度総会議決事項の概要……………事務局… 4

記念講演「能登のタブノキ」……………藤平 朝雄… 5

石川県巨樹の会5カ年の歩み……………事務局… 7

会報「巨樹いしかわ」目次一覧……………同上… 7

協力金のお礼……………会長 田中 敏之… 9

記念総会会場風景「緑のギャラリー」など…………… 9

巨樹探訪 第40回

森と巨木を尋ねて……………副田千賀子…10

巨樹の会の探訪会に参加して……………志田 勉…10

全国フォーラム(21)秋田県大会……………増井 和秋…11

樹木医からのメッセージ(17)……………小森 巖…12

巨樹だより……………事務局…13

巨樹の会日誌・その他……………同上…14

本堂城跡の大ケヤキ（美郷町指定天然記念物）

所在地 秋田県仙北郡美郷町
大きさ 幹周 880㎝ 樹高 25m

本堂城は中世の平城、秋田県指定史跡

地元では鐘馗様と呼ばれるワラ人形が飾られている。

これは民間信仰である道祖神（人形）が集落を悪疫から護ると信じられている。

（撮影・山森 茂 H.20.7.6）

（題字 里見信生）

石川県の巨樹

創立二十周年記念

平成二十年度通常総会

本会の二十年度の総会が、五月十日

石川厚生年金会館で開催された。

今年、創立二十周年記念事業とし

て長年の調査や既往の資料を分かり易

く纏めた巨樹リスト「石川の巨樹・巨

木林」を発行したほか当日は講演会や

懇親会、作品展（緑のギャラリー）な

どの記念行事を行った。

(一) 総会は、会場に会員の作品が多数

展示された中、宇野邦夫県議会議員ほ

か来賓や会員など六八名出席のもとで開

会、田中会長の挨拶に続き、勝山達郎県

農林水産部長、渋谷亮治県緑化推進委員

会理事長、川上千尋ひたち巨樹の会会長

(茨城県)の祝辞のあと、全国巨樹巨木

林の会会長の祝詞と静岡県南町巨樹の

会会長の祝電を演野副会長が代読した。

議事は、古谷浩一朗氏が議長を務め

議案四件を原案どおり決定し、引き続

き記念行事に移った。

(二) 講演会 演題「能登のタブノキ」

講師 藤平朝雄氏（能登半島広域

観光協会相談役）

(三) 懇親会 井幡前会長の発声で乾杯

のあと各界の方々のスピーチや交流で

和気藹々に親睦も深まり、最後に川上

ひたち巨樹の会会長から本会に力強い

エールが送られ一層の努力を誓って盛

会裡に全日程を終了した。

挨拶

石川県巨樹の会

会長 田中 敏之

本日は、当会が創立されてから二十

年目に当る記念すべき総会であります。

この小さな会に来賓各位をはじめ、多

くの会員が出席下さいます心から御

礼を申し上げます。

この会は、金沢大学教授、里見信生

先生の御指導によって設立されました。

当会の自慢は、県単位の会としては全

国で一番先だったという事です。会員

も百人から三百人に増えました。恒例

の行事としては、年一回の講演会、年

二回の会報発行、年二回の巨樹探訪会

を続けてきました。また年によっては、

新たな巨樹調査や後継樹の育成や樹木

診断等を行ってきました。これらが評

価されて、平成九年に朝日森林文化賞、

同十二年に環境庁長官賞という栄えあ

る賞を戴きました。この栄誉を誇りに

努力していきたいと思っております。皆

様のご支援ご協力を御願ひ申し上げます。

この機会に本県での動きを概観し

たいと思います。

巨樹に関わる文献の走りは大正七年

に石川県山林会から発行された

『加能老樹名木誌』だと思いま

す。当時の上位は、松七六本、

杉四五本、樺三二本となってい

ます。次いで石川県より『天然

記念物調査報告』が発行されま

した。昭和四九年から同六二年

の間、県高校生物部会誌に県内

社叢林の実態報告がなされまし

た。

そして、これらをまとめるよ

うにして昭和五三年、里見信生

初代会長の指導で『石川県の巨

樹』が県林業試験場から発行さ

れました。五〇名の調査員によ

り三ヶ年を要しました。

これから十年後の昭和六三年

に環境庁が一我が国の多様な自

然環境を体系的かつ適正に保全

していくために、全国の自然環

境の現況や変化の状況を的確に

把握する必要がある」という目的で第

四回の自然環境保全基礎として巨樹・

巨木林の調査が行われました。この頃、

巨樹ブームが出てきたと思います。

そして今回、当会としては重荷でし

たが、これらを整理し、ガイド記を付

して郷土色を豊かにし、使い易い『石

川の巨樹・巨木林』を上梓しました。

総本数は、二、三五六本で、主な上位

樹種はスダジイ五七九本、スギ五一〇

本、ケヤキ四九五本、タブノキ二五九



創立20周年記念総会

本でした。調査に携わった方々、協力

金で応援いただいた会員に心から御礼

を申し上げます。

巨樹・巨木林の見方は、いろいろで

すが、私の感じたことを申し上げますと本

県は、信仰の山、日本三名山の白山を

頂点としてブナ帯（夏緑広葉樹林・冷

温帯）とシイ帯（照葉樹林・暖温帯）

からなっています。『ブナの山旅』の

著者・坪田和人氏（前・北陸N.E.C.ソ

フトウェア）によると白山のブナ林は、

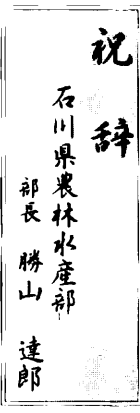
全国ブナ林ランキングで上位を保っています。その中には、日本一の「太田の大栃」や「こもちカツラ」があります。しかし、金劔宮（白山市・鶴来）のウラジログン林が瞬くうちに、カシノナガキクイムシで枯れました。目に見えない環境変化を感じずには居られませんでした。

シイ帯の代表は、やはり「堂形のスダジイ」が県都の代表格として堂々たる門標木のようなものです。

また、能登地方には古来よりタブノキが生育し、かつて我国一番のタブノキ（羽咋市森の宮）もあり、住民との関わりが深い緑をなしています。

本県には住民と親しい巨樹が多く皆さんで大切にせねばならないと思いません。

巨樹・巨木林は緑の原点であると共に景観保全等に欠かせない存在です。皆さんで護っていきましょう。



石川県巨樹の会創立二十周年の記念総会おめでとうございます。

今ほど会長のお話にありましたが巨樹の会というものは石川県が全国に魁けて日本で初めて作られた会ということを知りました。そして石川県巨樹の会が、巨樹を守り育てるという役割

を担い長年やってこられ、またこの度の記念誌「石川の巨樹・巨木林」の発刊などの活動に對しまして深く敬意を表するものであります。

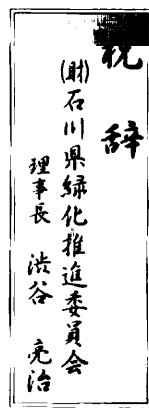
この記念誌を見せてもらいましたが、なる程これは全国をリードする内容だと感じました。私達農林水産部としても石川の森を守り育てようと頑張っている訳でございます。森林は木材生産ということもありますが近年は、山地災害防止とか水源かん養などのほか地球環境問題特にCO₂吸収源として非常に多様な役割を果たしている訳であります。

会長の話にもありましたが、私も全国一といわれる白山市白峰の「太田のトチノキ」を見てきました。考えて見ますと巨樹というものは、安らぎとパワーを与えてくれることもあります。

いま県は交流人口の拡大を非常に重要なポイントにしております。これからは巨樹にもそういう意味で山村振興の役割の期待が高まるのではないかと思います。

さき程のお話を聞きますとマツクイムシと台風で大事な巨樹が大部枯れてしまったということを知りましたが、我々農林水産部としても確り守って行かなければならないということを感じましたし、巨樹の会の皆さんには今後一層巨樹を守る活動を是非確りやって頂きたいと思えます。その期待

を申し上げまして簡単ではありますが私のお祝いの挨拶にさせていただきます。今日は、本当におめでとうござい



このたびの創立二十周年記念総会大変おめでとうございます。

お聞きしますと会員数が、個人・団体あわせて三百になんくとする大変素晴らしい会に育て上げられたということに感心しております。我々経済界にある者としても中小企業の枠の三百というのの一つのメルクマールでありまして、よくぞこういう団体に育て上げられたものと役員はじめ皆様のご努力に敬意を表したいと存じます。

実は、昭和三十年代の後半から四十年代のはじめ頃にかけて金沢経済同友会を実質的に作られた本岡さんがこういった調査をいろくやっておられました。私が代表幹事をお引き受けした時に古い資料を頂き、それを事務局かどこかに渡してそれっきりになってしまったことがあります。確り保管しなかったことを後悔しておりますが、どこかの時点でこうした資料を確り記録して残されるということは大変貴重なことだと感じた次第であります。二十周年の記念事業として大変素晴らしい仕

事をしておられるなあとこれまた心から感心いたしております。また今、マスコミで盛んに後期高齢者医療制度の話題が出ておりますが、私、実は一週間程あとには後期高齢者の八十台になるので大変寂しい感じをしているのであります。やっぱりこういった活動はどうして若い人々に話し伝えて行くかということが一番難しいことだと思っております。その辺を是非マスコミ関係の方にもお考えをいただきたいなあと思っています。我々も、まず自分の息子や娘にどうして話して行くか、終戦六十一年の時には戦争の話もした覚えもありませんが、是非こういった郷土の素晴らしいものについても語り伝えていくことが大事ではないかということを感じた次第であります。

たまたま、今そこに台湾ヒノキの写真が展示しておりますが、私もダムの完成式に参加した時に見ましたがそれは凄いいものでした。今改めて拝見して是非皆さんと一緒に見に行くようなチャンスがあったらとも思ったところでし

本日のお会が契機になって、会員の皆様ますますお元気で会の将来の発展につながることにありますよう心からお祝いとお願い申し上げます。ありがとうございました。

祝

全国巨樹・巨木林の会
会長 菅沼 孝之

貴会にはこの度、設立二十周年をお
迎えになりましたこと、まことにおも
でうございます。

わが国で、いち早く巨樹の会を設立
する必要を説き、実現に向けて主導的
に活動され、全国に先駆けて地域的な
「石川県巨樹の会」を設立された初代
会長里見信生先生、後を受けられまし
た井幡清生二代会長、田中敏之現会長
と、よき指導者を与えて、緻密な活動を
続けてこられましたことが実を結んで、
名誉ある朝日森林文化賞や自然環境功
労者として環境大臣表彰の栄に浴され
るなど、全国に結成されている巨樹の
会の運営のお手本とされています。

また、創立二十周年を記念して、
「石川の巨樹・巨木林」を出版されまし
た。本書には二百余本が記録され
ており、また、巨樹の生育環境と測定
年が記載されていて、爾後の調査結果
に今回の記録がいかにされるものと存じ
ております。貴会は、県内はもちろん
周辺地域の巨樹を知ることにも力を注
いでこられました。知識をひろめるこ
とは、巨樹を顕彰する活動に重要な意
義をもつことは言うまでもないことと
す。

もちろん巨樹の会の主要な目的の

つである巨樹の発掘には、広い行動範
囲が要求されます。木々に関心をもち
れる会員の分布が広いことも一因とい
えると思います。

貴会の三十年、五十年に向けての益々
のご発展と、皆様方のご健勝をお祈り
して貴会設立二十周年のお祝いの言葉
といたします。

祝

ひたら巨樹の会
会長 川上 千尋

皆さん今日は。高い席からご羨り
まして一言、二十周年記念のご挨拶を
申し上げます。

今日は、前回の十五周年に引き続き
て参ることができました。今日は特に、
ひたち巨樹の会事務局長の安嶋隆君と
参りました。安嶋君は、里見先生の教
え子でありまして、その教え子に又、
私等も教えられながら石川県巨樹の会
二十年の歩みと共にひたち巨樹の会も
歩んで参りました。今朝七時に金沢駅
に着きました。早見先生のご霊前にひた
ち巨樹の会もしっかりやっております
とご報告し、奥様としばし先生の遺徳
をしのびながらここへ参りました。

我々も今後、政府のいうような後期
高齢者になっても樹から教えられて結
局一生を終えられるようにという事を
願いつつやっております。

この会が、ますます発展し、またひ

たち巨樹の会との絆も一層強まること
を祈念してお祝いの言葉に致します。
どうもありがとうございました。

平成二十年度

総会議決事項の概要

◆平成十九年度収支決算の承認

- (1) 収入合計 二、八六六千円(会費
八九九千円、事業収入三二〇、五〇〇
円、補助金二一〇千円、協力金一、一
七千円、利息雑収入八四、六八八円、
繰越金一八四、八二二円)
- (2) 支出合計 二、八六六千円(事務
費四〇〇、四六八円、会報六三九、〇
三〇円、巨樹探訪会二二五、三三五円、
記念誌作成調査三〇九、一〇〇円、調
査普及等三二九、八四五円、次年度繰
越金九六二、二二二円)

◆平成二十年度事業計画

- (1) 記念誌「石川の巨樹・巨木林」発
行、(2) 会報発行二回、(3) 巨樹探訪会二
回、(4) 調査普及・講演会等

〔予算額〕

- (1) 収入三、七七〇千円、(2) 支出三、
七七〇千円(事業費三、二〇〇千円、
事務費三七〇千円、予備費二〇〇千円)

◆規約の改正

- (1) 事務所住所を金沢市東蚊爪町二丁
目二三番地一号に変更、(2) 監事の定数
三名を二名に減

◆理事に副田千賀子氏を選任

創立二十周年記念総会
ご臨席来賓ご芳名

(敬称略)

- 県議会議員 宇野 邦夫
- 県農林水産部部長 勝山 達郎
- 石川森林管理署署長 中原 一則
- 財団法人推進委員会 理事 洪谷 亮治
- ひたち巨樹の会会長 川上 千尋
- 「ふるさとの森 再び」
推進委員会幹事代表 北 実
- 県森林土木協会会長 林 敬
- 県農林水産部次長 三橋 俊一
- 県山林協会専務理事 山本成一郎
- 県農林業公社副理事長 森田 久志
- 県森林管理課課長 山口 茂範
- 県自然保護課課長 野崎 英吉
- 県文化財課専門員 川畑 誠

◇巨樹の会の益々の発展を期して
力強いエールで懇親会を締め括る
ひたち巨樹の会 川上会長(写真)



記念講演

能登のタブノキ「要旨」

講師 藤平朝雄氏

◇はじめに

タブノキの巨樹と初めて出会ったのは、昭和四十三年の八月である。輪島市町野町の曾々木と金蔵地区の夏祭りに出かけた折のことだった。春日神社と古刹の金蔵寺境内には、根回りに幾つもの隆々とした瘤をつけた巨樹があった。どちらも鎮守の領域に成育していることもあって、巨樹はことさら存在感があった。

半島の未来を託して能登空港が開港したのは、平成十五年七夕の日。能登浮上の切り札としての開港は、首都圏からの大幅な観光客増大の期待がこめられた。開港前に開催された能登半島広域観光協会の総会で、私は「当面の旅客誘致事業の推進も重要だが、観光地能登のシンボルともいえるべき『花・鳥・木』の制定も検討を進めて欲しい」と発言した。

◇「能登の木」の制定に向けて

私のささやかな能登のタブノキ行脚は、その日が旅立ちとなった。

タブノキに特に関心をもち始めたのは十年ほど前で、再放送を含めてNHKラジオ深夜便で二度にわたって、横浜国立大学の宮脇昭先生の鎮守の森に関する話を聞いたのがきっかけだった。その折、タブがシイやカンなどと共に鎮守の森の主木で、鎮守の森は先進諸国の中でも唯一、原植生が今に残る貴重な森であること

それだけの市や町にも、制定した花鳥木がある。しかし全国各地から訪れる旅人からみれば、能登は「ひとつ」なのだ。広域観光の必要が叫ばれながら、行政枠にとらわれがちな意識が各自治体とも強かった。それを変革させるためにも、行政の垣根をとりはらって花鳥木を制定することは、今後の観光振興を推進する上でも意義深いものと考えていた。

◇折口信夫と能登のタブノキ

昭和二年（一九二七）六月。国文学者で民俗学者、さらに釈迦空の名で歌人として知られる折口信夫が、能登を初めて訪れた。そこで出会った気多大社の背後に繁るタブノキやスタジイなどの照葉樹林が、久しく古代研究に情熱を傾けていた折口の感性を揺さぶったようだ。タブノキに思いを託した短歌も数首残し、昭和四一五年に発刊した「古代研究」全三巻には、口絵写真に八本の能登のタブノキが掲載されていた。折口は後に「我々の祖（おや）たちがこの国に渡ってきたのはタブノキに近いところで、その渚の砂を踏み

織の事務当局者と連携をはかり、観光地の能登に最も相応しい花鳥木は何だろうか？ と、他角度から検討を進めてみた。すると多種の植生の中で能登に多く、広く繁茂し、かつ物語性ゆたかな「花と木」が、彗星のように突然と浮上してきた。

空港開港の四年後。事前の検討や協議を経て、平成十九年度能登半島広域観光協会の総会で、能登の花は「のとキリシマツツジ」、木は「タブノキ」が制定された。鳥が未制定なのは、誰もが半島から消えた「朱鷺」に思いを残しているため、いつの日か能登の大地にとき色の羽が舞うまで待とう：という、暗黙の空気があった。

しめて感じたものは、青海のひろがり（は）の国への追慕であったらう。日本民族が最初に感じたもののは、海彼岸へのノスタルジアであった」という趣旨のことを著している。能登のタブノキは折口信夫により、初めて奥の深い物語を秘める植生として紹介されたのである。

◇生命を守る木

能登でタブの巨樹が今も多く残る地域は、鎮守と岬の端である。羽咋市の気多大社や珠洲市の須須神社をはじめ、各地の古刹寺院や墓所、屋敷神のある旧家などの「鎮守」に今も多く残っている。ほかに岬の端や山頂にもある。岬の端も山の頂も、神を迎え降臨する所だから、どちらも神霊を招く鎮守の



能登のタブノキの「シンボルマーク」

重なる森であること
を知った。
さらにタブノキが
秘める物語の世界
がひろが

言い出しつべの責任もあり、私は組



折口信夫と養子春洋の父子が眠る藤井家代々の墓山
=羽咋市寺家町=



太さ日本一といわれる森の宮の大タブ
(幹周9m) = 羽咋市鹿島路町 =

地といえよう。
樹勢は衰えているが樹齢六百五十年、幹周り九mをこえる日本一太いタブノキが羽咋市鹿島路町にある。巨樹の基準でもある幹周りが三m以上というタブノキは、石川県全体でおよそ二百十本を数える。全国的にも優位だが、そのうち能登には百七十本ほど成育しているのので、まさに能登はタブノキ王国と言える。
タブは生命を守る霊木で、古より神聖視されてきた。その由縁はあらゆる災害に強く、数々の靈異譚が残っていることでも頷ける。地震や水害、火災などにも強靱な樹力を発揮してきたこと。上部がこんもりと円冠状にひろがる樹相と、冬も緑の照葉樹であること。さらには根回りには降々とした瘤があり、見るからに「神さびた」風格をもっている。一例が各地に「火災にあった寺院や旧家を、タブノキが黒焦げになっ

◇昔は船材に用いたタブ

奈良時代末期を代表する万葉歌人で、越中国守の相伴家が春の出家で能登路を一巡した折に、多くの秀歌をものにしていく。
鳥総立て／船木伐るといふ／能登の島山／今日見れば／木立繁しも／幾代神びそ(巻十八・四〇二〇)

て守り、翌春には瑞々しいみどり葉を甦らせた」という話が残っている。
生命を守る木こそ、神木・霊木・そして招福の木となる。現に平成十九年三月に発生した能登地震の折、震源地に近い輪島市門前町の禪寺の建物は全壊したが、境内のタブノキは悠然と残った。
近年は地球温暖化など、環境問題が地球規模での課題になっている。タブノキなどの照葉樹林は、古より無言・無報酬で大気の浄化に大きな役割を担ってきた。煙突から高温の炭酸ガスなどを排出している七尾市太田の火力発電所前には、横並びにずらっとタブノキが植えられているが、これも環境対策の一助に活かされているのである。さらに防災と景観面を考慮して、石川県の新庁舎前にもタブが植栽されている。

◇能登人の信仰が残したタブ

原植生のタブノキが、能登の鎮守に今も多く残っているのは、伐ったら罰があたるといふタブー意識によるものだ。しかし、古より海岸部から平地に繁茂していたタブは、縄文時代末期に稲作が伝わり、田を拓くことに伐られ続け、縄文末期から今日まで伐られ続けた木である。
ところが、どうしても伐採できない所があった。靈魂が宿る鎮守の地である。能登人のタブー意識が今日、国内でも稀にみるタブノキ王国を残したと言えるだろう。

能登は大和朝廷にとつて、貴重な船木の補給地だった。渤海国との往来に福良津(福浦の古名)で造船した船の名を「能登」と号した。船材はタブノキを用いたといわれる。家持が船上から見た神さびた能登の樹林は、現在とは全く異なったタブノキなどの繁る照葉樹林である。

◇おわりに

今も鎮守の森が多く残っている能登は、日本でも屈指の原風景が生活の中で息づいている半島である。
しかし、現在見なれている山林の眺めは、とんがり帽子の杉やアテが多い。杉は花粉症の元凶といわれ、外材に価格競争で圧倒され、台風にあえば根から倒れる。その土地本来の木ではないからだ。当面の必要に迫られて植えたため、後年になって芳しくない結果が続々と現われた。今後の森づくりは、その土地本来の木と共生する山づくりが基本であろう。
タブノキは三方が海に囲まれた、その土地本来のシンボルと言える、能登を代表する木なのだ。
(能登半島広域観光協会相談役・輪島市)



能登地震で全壊した寺院境内に残るタブノキと筆者
= 輪島市門前町 =

石川県巨樹の会5カ年の歩み

平成15年6月～19年12月 (平成元年～15年5月は15周年記念誌)

Table with 2 columns: 月日, 活動. Contains activities from 2/26 to 12/2~3.

平成19年(2007年)

Table with 2 columns: 月日, 活動. Contains activities from 1/27 to 11/10~11.

Table with 2 columns: 月日, 活動. Contains activities for 11/19 and 12/17.

平成17年(2005年)

Table with 2 columns: 月日, 活動. Contains activities from 1/24 to 11/16.

平成18年(2006年)

Table with 2 columns: 月日, 活動. Contains activities from 1/26 to 1/28~29.

平成15年(2003年)

Table with 2 columns: 月日, 活動. Contains activities from 6/15 to 12/29.

平成16年(2004年)

Table with 2 columns: 月日, 活動. Contains activities from 1/11~12 to 11/15.

会報“巨樹いしかわ”目次一覧

平成15年 No.29～20年 No.38 (平成元年 No.1～15年 No.28は15周年記念誌)

Table with 4 columns: 目次, 備考, 目次, 備考. Lists contents for No.29 and No.30.

目次	備考
ドウダンツツジ 県立自然史資料館オープン	薬学博士 木村 久吉
巨樹探訪会 (第35回) 能登の名桜・菊桜への 出会の夢かなう 全国フォーラムに参加して ⑧	城森 順子 増片 和秋
宮崎の巨樹探訪恐怖体験 また見つかった「巨木林」⑩ 平成18年度総会・講演会 本多の森のきのこ (講演要旨) 樹木医からのメッセージ ⑪ 日本樹木医会石川大会の開催 ぬくもりの木道づくりに参加して 巨樹探訪会のお知らせ 住宅探訪 ⑫ 能登ヒバ (スズアテ) で健康住宅 台湾 (台北) 見聞記 巨樹だより、総会概要、日誌	北川 正司 古谷浩一朗 能勢 育夫 電橋 久郎 千木 容 笠間 久司 事務局 田中 敏之
平成19年 (2007) No.36 H.19.2.1	
表紙 相倉の夫婦ケヤキ また見つかった巨樹 ⑬ 大山山巨樹巨木調査報告 全国巨樹の会総会並びに 全国フォーラムに参加して ⑨ 巨樹探訪会 (第36回) 富山県南砺市方面を訪ねて ◇苦難に耐えた巨樹たち◇ 「元祖」アテ年輪解析の後日譚 平成19年通常総会と講演会の案内 比叡山「ほうとうの森」 大植樹祭に参加して 巨樹探訪会の案内 「ぬくもりの木道づくり」に参加して 樹木医からのメッセージ ⑭ 巨樹だより、巨樹の会日誌	山森 茂 坂井 秀樹 事務局 副田千賀子 加藤 輝隆 北川 正司 間明 弘光 小森 巖
平成19年 (2007) No.37 H.19.8.1	
表紙 輪島市門前町總持寺通りの被害 能登地震あれこれ 「いしかわ森林環境税」による手入れ不足林整備の 取り組みが始まりました 県森林管理課 国民の森林を守り 育てるための新拠点 石川森林管理署 巨樹探訪会 (第37回) 輪島・能登町 創立20周年記念行事のお知らせ 巨樹探訪会の案内 第1回巨木と森を訪ねての案内 一健御向きー タブノキ賛歌 「カウリの森」を訪ねて 巨樹名木など見聞記 樹木医からのメッセージ ⑮ 巨樹だより、総会概要、巨樹の会日誌	輪島 市 石下 哲雄 事務局 小竹 正夫 事務局 藤平 朝雄 濱野 一郎 事務局 電橋 久郎
平成20年 (2008) No.38 H.20.2.1	
表紙 稲荷の大杉 石川の巨樹・巨木林 20周年記念事業と総会 巨樹探訪会のお知らせ 巨樹探訪会 (第38回) 越前市と 池田町の巨樹と文化財 (第39回) 越前・今庄の巨樹探訪 ドイツの南部の巨樹を訪ねて いしかわ森林環境実感ツアー 全国巨木フォーラムと総会 ⑯ 樹木医からのメッセージ ⑯ 巨樹だより、巨樹の会日誌	山森 茂 事務局 城森 順子 八木 豊夫 濱野 一郎 笠間紀美子 北川 正司 千木 容

備考
資料：植物152,000点、 動物4,800点、 地学20,000点、 その他
キクゴクラを尋ねる 富崎県 紙肥杉、清武の大楠等 大久保のヒノキ 白山のブナ林 (千丈平) 林業試験場次長・きのこ会 金沢市の「医王の里」 富山県城端、平、福野町 珠洲市上戸町寺社 故宮博物院、植物生態園等
富山県南砺市相倉 加賀市 明治神宮の森、新御宿苑 相倉、安房寺の榉等 富山大学大学院 比叡山延暦寺周辺 奥能登の花々 (ツツジ、サクラ) 植物寄生性ダニ類
富山県南砺市北郷町岩屋 高木 政喜 福井県勝山市北郷町岩屋 木下 睦彦 笠間紀美子 北川 正司 事務局 緑と花の相談員 電橋 久郎 富山県南砺市北郷町岩屋 高木 政喜 福井方面、東京移住にあたり 山中町、千古の家 (福井丸岡町) 薫蓋樟、野間塚、桜の通り 抜け 白山市河内町久保 横山郎 金沢市緑と花の課 調査 中能登町・羽咋方面 富山県南砺市北郷町岩屋 高木 政喜 福井方面、東京移住にあたり 山中町、千古の家 (福井丸岡町) 薫蓋樟、野間塚、桜の通り 抜け 白山市河内町久保 横山郎 金沢市緑と花の課 調査 中能登町・羽咋方面

目次	備考
平成16年 (2004) No.31 H.16.8.1	
表紙 芦峯寺雄山神社境内杉林 退任の挨拶 就任の挨拶 平成16年度巨樹の会役員 平成16年度 (2004年度) 総会・講演会 講演 一生生体としての樹木ー 石川県地域植物研究会会長 古池 博先生 巨樹探訪会 (第31回) 探訪会に初参加して 春季探訪会に参加して 人工林の下層植生調査から見た植生状況 ー森林資源モニタリング調査を終えてー また見つかった巨樹 ⑰ 巨樹名木など見聞記 ⑱ 林業に想う 樹木医からのメッセージ ⑲ 巨樹の生育環境 巨樹探訪会のお知らせ 巨樹だより、総会概要、巨樹日誌	山森 茂 井端 清生 田中 敏之 事務局 小竹 正夫 武部 富江 高木 政喜 田中 敏之 上野長次郎 松枝 章 千木 容
平成17年 (2005) No.32 H.17.2.1	
表紙 桂谷の大杉 巨木を語ろう 全国フォーラムに参加して ⑰ 巨樹探訪会 (第32回) 加賀市・山中町の地を訪ねて 九谷に思いを クマの出没について 巨木を植えよう 総会、巨樹探訪会のお知らせ 「元祖アテ」の年輪測定を試みて また見つかった巨樹 ⑳ マダガスカルの旅 巨樹バオバブを訪ねて 津幡町の台風23号被害状況 樹木医からのメッセージ ⑳ 巨樹だより、巨樹の会日誌	山森 茂 事務局 事務局 田中 豊子 三浦 敬夫 Y・S 生 加藤 輝隆 濱野 一郎 間明 弘光 松枝 章
平成17年 (2005) No.33 H.17.8.1	
表紙 祭祀遺跡石仏山 地球の温暖化と森林 講演 屋久島の環境と森について 平成17年度総会 秋季巨樹探訪会のお知らせ 巨樹探訪会 (第33回) 初めての「石川の巨樹探訪会」 探訪会に初参加して 幾たびか尋ねた柱を 巨樹名木など見聞記 また見つかった巨樹 ㉑ スウェーデンの環境教育と森林 樹木医からのメッセージ ㉒ 巨樹だより、巨樹の会日誌	山森 茂 三浦 敬夫 千木 容 依 直 岡野 葉子 事務局 田中 豊子 古谷浩一朗 松枝 章 電橋 久郎
平成18年 (2006) No.34 H.18.2.1	
表紙 岩屋の大杉 能登半島でフェザンショウを発見する 巨樹探訪会 (第34回) 巨樹探訪会への思い 秋の巨樹探訪会に参加して 大阪巨樹探訪報告 住宅探訪 ㉓ 地域に残る木造住宅への取組み 金沢市小中学校の樹木現況調査 樹木医からのメッセージ ㉔ 総会・講演会のお知らせ 巨樹探訪会のお知らせ 巨樹だより、巨樹の会日誌	山森 茂 高木 政喜 木下 睦彦 笠間紀美子 北川 正司 事務局 緑と花の相談員 電橋 久郎
平成18年 (2006) No.35 H.18.8.1	
表紙 センショウジキクザクラ 富正寺菊桜の樹勢回復	田中 敏之

協力金のお礼

会長 田中 敏之

昨年本誌三七号で、今年の創立二十周年に記念誌「石川の巨樹・巨木林」の発行や講演会その他の記念事業を計画し皆様は協力金をお願いいたしましたところ、現在までに一八〇名の方々から百三十七万七千円のご協力を戴きました。お陰様で記念事業を計画通り進めることができました。心よりお礼申し上げます。

協力金納入者「芳名」(二) (敬称略)

平成二十年一月～六月までの方

三万円—— 里見房代

二万円—— 小山次左衛門・北 実

一万五千円—— M・S生

一万二千円—— 坂井昭保・長谷川義法

一万一千円—— 木村久吉

一万円—— 源 衛・多田秀夫

上口照子・本嶋下加良

ひたち巨樹の会

石川県山林協会

八千円—— 清水玲子・北門善枝

多田久直

七千円—— 大深伸尚

六千円—— 越渡朝生

五千円—— 東野端春・広正一二

四千円—— 平野 豊・西山義春

加賀 実・清水 武・野村外喜子

岡野葉子・堀 駿子・二ツ木良秋

中堀宏昭・桜井 敏・桂木武彦

三千円—— 出村みよ子

二十周年記念絵会 会場風景

緑のギャラリー 出展作品

写真 山森 茂 十点

濱野 一郎 八点

北川 正司 二点

書道 笠間紀美子 一点

木工芸 松枝 章 二点

材鑑 久保 宝二 五十点

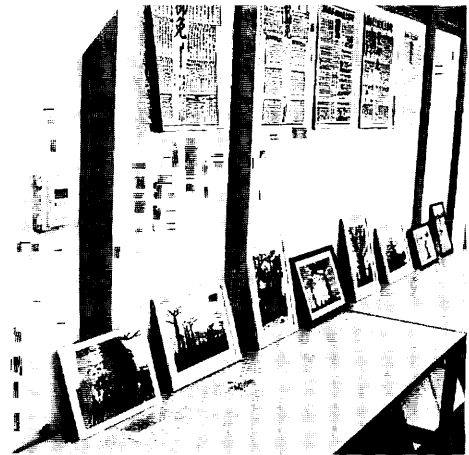
杉浦幸子・飯盛俊郎・西山郷史
尾重和彦・大橋武俊・東本外茂男
林 金明・高山剛一・平田良雄
滝田晴夫・永坂鐵夫・富樫浩一郎
若山 尚・油谷妙子・甘池和子
堀内浩一・丸山幸三・中村蓉子
谷光一夫・辻 繁・宇多須神社
岩本緑化(株)・池岡直樹



巨樹の写真展示



書道、木工芸、材鑑標本など



巨樹の写真と番付表



スタッフの皆さんご苦労さんでした



和やかな懇親会

巨樹探訪
第40回

森と巨木を訪ねて

(富山県南砺市方面)
健脚コース

副田 千賀子

五月二十四日南砺市の砺波平野と庄川の間に横たわる高清水水系(高清水山一、一四五峰、八乙女山七五一峰、閑乗寺山など)の雪持林や水持林の森と巨木を訪ねた。赤祖父山、大寺山の麓の村々は、江戸時代初期まで森林は荒廃して水田の水不足で水争いが度々起きていた。村々は、山の木を伐らない誓約書を取り交わし、更に一六二七年には加賀藩が水持林として禁伐したので今は富山県有数のブナ林が広がっている。

(1) 鉢伏平のナシノキ(樹種ヤマナシ 幹周六・八峰樹高十一峰) 県指定天然記念物。殆ど伐採を禁じられていた赤祖父山系の中で庄川沿いの杉尾と城端を結ぶ山道沿いは、村人の薪炭や木地用材、塩硝の原料等に利用されていた。鉢伏平のナシノキは、春は平野部からも見え雪道の目印として大切にされた。

(2) 縄ヶ池姫神社の大杉(幹回五・六峰樹高二十五峰) 縄ヶ池は、山崩れが谷川をせき止めて出来た深さ十峰、周囲二峰、標高八二十峰の湖。水芭蕉の群生地で一九六五年県指定天然記念物。この池は、流入する水よりも流出する水が多く七不思議といわ

れているが豊かな自然林の高清水水系の伏流水が流入しているためと考えられている。湖畔にはサワグルミの大木が多い。

(3) 田向の光明寺の杉(幹周三・五峰樹高二十峰)とイチョウ(幹周四峰樹高二十峰)。境内には、天保の大飢饉(一八三三〜一八三六年前後の十年間)の時に年貢の減免を嘆願し投獄・獄死、五箇山へ流罪にされた一三名(金沢市西念、新保、下安江、南新保の人々)を顕彰する「天保義民の碑」がある。

(4) 渡原のオオトチ(幹周八峰樹高二十峰) 南砺市天然記念物。

この木の足元から泉が湧き、命の



縄ヶ池付近のサワグルミ(幹周3.7峰)

水といわれていた。

(5) 田向の雪持林、原生林の中にブナ、トチ、イタヤカエデ、カツラ、サワグルミ等の巨木が見られる。

巨樹の会の探訪会に参加して

志田 勉

このたび、懇意にしていたいでいる大先輩の土田博さんに「巨樹の探訪に来てみないか」と誘われ「いいですよ、その日は空いていますから」と。安易に参加させていただいた。土田さんとは、小松にある「憩いの森」で何度かお会いして、幹周三峰以上を巨樹とよぶことや、巨樹の会がある事を時々聞かされもし、また、何度か小松市内の巨樹を探索し、幹周の計測の手伝いはさせていたのだが、巨樹の会の活動はどんなものか深く考えることもなく、恥かし

ながら今もまったくわかっていません。以前に小松市内の「赤穂谷のビヤクシン」や、南砺市での「大梨の木」を前にしたとき、因習を取り込んだような幻想的な映画のヒトコマを見ているように感じたことや、また今回の探訪会は、登山でもなく、山野草や樹木の研究でもなく、気軽に何かを感じればいいのか、と勝手ながら、なんともさわやかに思われたことが素直な感想です。

そこで、探訪会のバスの中で「秋の探訪会に参加しませんか」と副会長さんに勧められると、降りる際には「お願いします。参加させて下さい。また、巨樹の会に入会したいのですが」と、ちょっと軽率な感じでしたが、次回探訪会参加と巨樹の会に入会もさせていただきますました。

自分とは程遠い専門的な研究者の方ばかりであろうと思ひ込んでいたが、(ひょっとして、そうかもしれないが)今回このような勢いに任せただよ入会させていたでいいものかと、自分自身少々申し訳ない気持ちですが、少しづつ勉強させていただきますので、先輩の方々、今後ともよろしく願ひします。

第21回 巨木を語るう全国フォーラム

秋田県大会に参加して

増井和秋

7月5～7日

東北の地、誰もが一度は行ってみたい小京都 角館。開催案内の遅れから、先方に電話を入れるなど、いらぬ心配した今回の参加でした。

前泊ということで角館に夕方に着くには朝六時過ぎの「北越一号」しかなく、秋田から新幹線で角館着が夕方六時過ぎ。それからシャトルバスを待つこと三十分、十二時間の長旅でやっと宿の花葉館に到着した。

翌五日は、大会第一日目、角館権細工伝承館で総会があり昼食後フォーラムに移る。基調講演の「秋田の巨樹と豊かな森をめぐる」は、秋田と岩手の県境稜線を中心に広がる和賀山塊は下流平野や都市部の社会生活を根本から守ってくれる神聖地である。ブナやミズナラなど広大な森林は、生命の源であり厳正に保護されるべきであると強調された。

報告は六件、その内の一つ、「角館のサクラの保存と武家屋敷の古木」についてを説明します。

報告者は樹木医の黒坂登氏、役場の桜係の二代目でサクラの保護管理者。町内は勿論、松木内川沿いの桜並木等で、市街地だけで千五百本。サクラの

樹勢回復や更新に取り組む。毎年美しい花を見て頂くには、年間を通じた管理が不可欠「酷いものは見せられない」との思いで、自分で高所作業車を操作する等すべて直営で管理している。桜は手入れするとそれに応えてくれるや

り甲斐がある樹木である。武家屋敷の古木で特に目立つのはモミで、武家の威厳を誇示するために植えられたとされ、本数は約三〇〇本。代表格は石黒家の幹周四・八呎、樹高三五呎だそうです。

最後に、次期開催地の鹿兒島県蒲生町に大会旗が引き継がれ、以後は、徳島県つるぎ町、茨城県と三年先まで決まり、楽しみが増えました。

二日目の巨木ツアー。ニココースが企画されていました。「角館歴史文化コース」「西木・田沢湖森めぐりコース」、「太き日本一のブナコース」(健脚向き)です。私達と副田さんは「西木コース」浜野・山森両氏は「ブナコース」へいきました。最初は「旧西木村の真山寺の乳銀杏」。県内有数の巨樹で、古木によく見られる多くの乳状下垂の気根が目を引き。最大のもは二呎にも達する。落葉の様子で根雪の時期を予測

したとも伝えられ、樹勢は良く、落葉を掃き集め腐糞土にして、踏圧防止と養生をはかる手法がとられている。

次は、国道46号線を走り「金峰神社のスギ並木」へ。養老二年(七一

八)創建と伝えられている。参道の四ツ目の鳥居から拜殿に至る一五〇呎は石段となっている。参道両側に樹齢四〇〇年以上のスギが立ち並んでいる。左右で八一本。かつて六五〇呎に亘り同様の並木が続いていたが、残念にも太平洋戦争で軍用材として伐採供出された。秋田を代表するスギ並木で離れ難い木でした。

次にバスは、日本一の深さを誇る田沢湖へ。途中、中国の故事にあやかっ

て名づけられた「蓬萊の松」を車窓から見る。日通り三呎、樹高一六呎、推定樹齢二一〇年。古来より田沢湖の名松として知られている。



金峰神社のスギ並木

平均直径六四センチ、所有規模は地域内で最も大きく、文化、文政の頃より宮々として受け継がれた家伝林。国有林の天然スギにも匹敵し、秋田スギの民間植栽林として貴重な存在である。林齢五十年以降は間伐等は一切行わず、自然淘汰に任せられた状態である。森めぐりの終盤は「神代杉」へ。時間の都合で車窓からということが残念であった。

しかし、田沢湖芸術村温泉の宿のゆぼぼに向かったところ、幸運にもロビーに神代杉の大作が掲げてあるではありませんか。さらに驚くことに、三日間ご一緒だった平岡先生にも館内でパッタリ出会い、杉まで歩いて二十分との話を聞き翌朝五時起床で汗をふきながら見に出かけました。個人の所有では珍しく、先祖が氏神である社地に植え



千葉家のスギ家伝林

たもの。二本の杉からなっている。推定樹齢六一〇年の巨樹。

最後は角館・平福美術館に寄り、フォーラムの報告者、地元出身のフォトグラファーの小松ひとみ氏の「水と緑の写真展」を見学。素晴らしい作品に感銘を受けました。

バスは解散地のJR角館駅へ。お世話を下さった方々に感謝しながら各々目的地に向かった。私達は松木内川堤の日本一の桜トンネルを写真に納め、もう一泊しようと温泉ゆぼへ。温泉は源泉かけ流し、夕食は秋田三昧。比内地鶏で満腹、満足でした。

五日目の帰りは寝台特急（日本海）。夕方まで時間はたっぷりあり、男鹿半島の南に位置する「日本の渚百選」

「鵜の崎海岸」へ。雨模様でも沖にのびる岩礁が美しい。景勝地に名残り惜しみながら秋田駅へ向かう。

秋田市内では赤レンガ造りの郷土館を見る。旧秋田銀行本店、明治四十五年ルネッサンス様式の華麗な外観、パロック様式の内装（国重文）で威厳のある建造物であった。

ついで、久保田藩の城跡千秋公園へ、唯一現存する藩政時代の建物「御物頭御番所」、本丸正門（復元）など

園内を散策。秋田の城下町を堪能し、いよく帰路へ。

夜行寝台で寝ていて分らなかったが汽車の運行がおかしい。夜明けからの大雨で富山の黒部あたりから増水のため安全運転で時間通りのダイヤでない。ノロノロ運転で到着時間が大幅遅れ。駅で特急券払戻しのおまけがあった。今回の秋田の旅は現地では梅雨時ながら天候に恵まれたが、暑さにはパテ気味。でも秋田の魅力に感動した楽しい大会参加でした。

（金沢市・元監事）

樹木医からのメッセージ (17)

小森 巖

予想外の実態・植物寄生性コナジラミ

あまりなじみのない害虫名ですが意外と身近に多く見られます。樹木、花卉、野菜類に寄生し吸汁加害する昆虫綱「カメムシ目」ヨコバイ亜目「腹吻群」コナジラミ科の昆虫の総称で、キジラミ、アブラムシ、カイガラムシに近縁です。ちなみに哺乳類の皮膚に寄生し血液を吸うシラミ目シラミとは、名前は似ていますが別系統です。

コナジラミは『粉虱』と書かれ、語源は成虫が沢山止まっている植物に触ったとき、白い虫が粉吹雪のように舞い上がるところから出たようです。ツツジ、サツキ等でよく見かけます。

体長3ミリ以下の微小昆虫で、日本では外来種を含め約七十種が知られています。

成虫は自由生活者で活発に飛び廻り、体は軟弱で体表や翅はロウ質の粉で覆われています。幼虫は種々の植物に寄生し重要害虫も多く、ミカンを加害するミカントゲコナジラミ、ツツジのツツジコナジラミ、モッコクのマールラットコナジラミや温室野菜の大敵であるオンシツコナジラミ等が代表的です。

成虫は橙黄色で褐色の斑紋があり、翅は半透明。特に羽化直後はルビー色の眼と淡橙色の斑紋のある翅が幻想的です。

一、マールラットコナジラミ



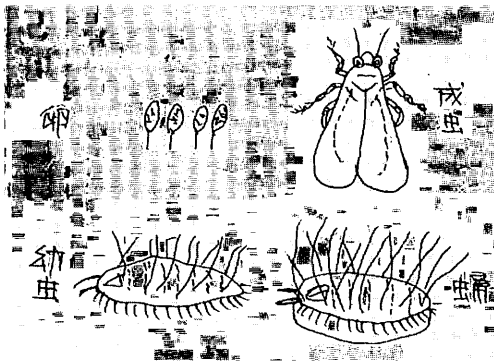
成虫

これに対して蛹殻は一・二×〇・九ミリ、全体黒褐色で楕円形、前面に一對の三日月形透明部があり、UFOの円盤を連想させます。

孵化幼虫は淡褐色楕円形。卵は楽器のマラカスの握りのほうを葉面につけて直立させたような形です。

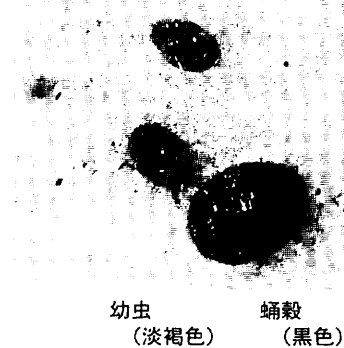


羽化途中



雌成虫は体長一・一ミリ内外、体は淡黄色、前後翅ともに半透明で白粉に覆われています。蛹殻は淡黄色く淡緑白色で〇・八く〇・六ミリ内外、卵形または、楕円形で全体的にやや甲高のコロケ形をしています。

二、オンシツコナジラミ



幼虫 (淡褐色) 蛹殻 (黒色)

三、主な留意点

- ①コナジラミについては種類も七〇くらいあり、一概には言えませんが、大きく分けて外来種と在来種があります。成虫の翅は四枚で一部斑紋のあるものもありますが、半透明く白色です。幼虫は淡色で蛹態に近い形のものが多いです。蛹殻は黒色系または黄色系に二分されます。
- ②発生形態は種によって異なりますが、温室、ビニールハウスを除き年二〜四回の発生です。
- ③コナジラミの類中でブドウコナジラミとヤマモノコナジラミは、異種寄生性です。例えば、ブドウコナジラミの場合、冬はモッコクに初夏〜秋はブドウに住まいます。その他の種は時期よっての移住はない模様です。
- ④羽化後、腹面横に二ヶ所白色ロウ質物が分泌され、これを前後脚で体や翅に塗りつけお化粧?します。防水、防寒が目的らしいです。
- ⑤羽化は早朝から始まり、午前中で打ち止め、半ドン制です。
- ⑥コナジラミに対する農薬については花卉、観葉植物、いも・野菜・豆類などには登録農薬がありますが、樹木類、花木類、バラ、果樹等については登録農薬がありませんので留意が必要です。

巨樹だより

受賞された方々

◇四月十一日 「自然環境功労者環境大臣表彰」が行われ、古池博氏(理事)が国の自然環境保全基礎調査などに尽力した功績により受賞した。

◇四月二十九日 県民みどりの祭典の席上、「いしかわ森林環境功労者表彰」が行われ、個人部門で、石下哲雄氏(地区委員)が受賞した。

◇六月五日 「ふるさと石川環境保全功労者知事表彰」が行われ、高本政喜、立花武志(樹木医)の両役員が受賞した。

◇六月十二日 日本観光協会の「観光事業振興功労賞」を藤平朝雄氏(能登半島広域観光協会相談役)が受賞した。

NHK金沢放送局の「ろくまる文庫」六月九日に田中会長が出演。「石川の巨樹・巨木林」をPRし、推せん図書として『木に会う』(高田宏著)を紹介した。

ふるさとの森 再び ◇五月三十一日、金沢・医王の里「ぬくもりの木道づくり」ササユリの道」がスタート。

この行事の中で、会員が採集した材鑑標本の「樹木名あてクイズ」(スギなど一〇種)を行い二六名が回答。他に二〇種も展示し好評であった。(指導)千木、間明、副田、笠間

◇六月二十二日「森林シンポジウム二

〇〇八 里山の森と再生」が金沢市文化ホールで開かれ、基調講演、特別スピーチ、パネルディスカッションが行われた。会員多数出席(笠間)



「樹木名あてクイズ」(金沢市医王の里にて)

二十周年記念

秋季巨樹探訪会について

本誌38号でご案内の十月四・五日新潟県〜長野県方面一泊二日の巨樹探訪会は、参加希望者が四六名で予定数に達し計画通り行う予定です。もし不都合が生じた方は、事務局まで速やかにご連絡下さい。

訂正とおわび

石川の巨樹・巨木林
七〇頁三行目と四行目をスギとケヤキへ。七三頁五行目イチヨウは削除。一三〇頁一八行目から二二行目の羽咋郡富来町を志賀町に訂正。
巨木と森を訪ねて(健脚組)を企画しましたが定期の探訪会に組み入れませんでしたので御了承下さい。

石川県巨樹の会 日記誌

1月10日 藤平朝雄氏と総会での講演について打合せ 会長

1月22日 合同役員会議案や記念行事等打合せ 会長、三浦、笠間

1月26日 合同役員会、19年度収支状況、20年度の事業と総会、記念誌の発行と頒布、事務局の変更と移転、役員補充等協議 出席一九名

1月30日 31日 会報「巨樹いしかわ38号」発送・配布 事務局

2月15日 記念誌の印刷・製本の打合せ 徳野印刷と会長、理事二名

3月16日 企画委員会、記念総会及び関連行事等の準備打合せ

3月20日 NPO法人石川県自然史センター臨時総会 会長

3月10日 30日 記念誌「石川の巨樹・巨木林」内容点検、補足・修正等数回

4月4日 巨樹・巨木林調査交通費支給額調整等打合せ 会長、三浦

4月7日 記念誌原稿最終点検

4月8日 原稿を印刷会社に渡す

4月12日 16日 記念誌配布等の諸準備開始 教育、文化、行政、林業団体、友好団体、会員等 事務局

4月18日 県ほか関係機関に20周年記念総会開催案内を送付 事務局

4月19日 記念総会準備委員会

4月24日 記念誌印刷完了

4月25日 記念誌を初代会長故里見

信生先生宅へ持参。県立図書館に県下各図書館分を、県教委に県下各市町教委及び各小学校分を配布依頼

4月26日 県外会員に記念誌送付

5月2日 監査 監事三名、会長、事務局

5月3日 総会場点検 準備委員

5月6日 総会打合せ 県生涯学習センター 会長、三浦、笠間

5月9日 記念総会準備、展示物、記念誌等会場へ搬入、祝電祝詞届く

5月10日 創立20周年記念総会並びに講演会や懇親会、緑のギャラリーなどの関連行事を開催（石川厚生年金会館） 来賓・会員六八名出席

5月11日 会員へ記念誌発送

5月13日 20周年記念総会開催を知事、副知事、関係担当課、関係者に報告と御礼の挨拶にまわる 会長

5月24日 第40回巨樹探訪会、富山県南砺市方面 参加者二〇名

5月31日 「ふるさとの森再び」キャンペーン「ぬくもりの木道づくり」(金沢市)に参加 会員六名

6月4日 宝達志水町菅原の明専寺の巨樹調査 三浦

6月12日 事務引き継ぎ(新・旧事務担当) 笠間理事立会

6月13日 宝達志水町菅原、明専寺 菅氏来所 巨樹関係資料を提供

お礼のことば 田中敏之

巨樹・巨木林の貴重さと普及するため、長い間「巨樹いしかわ」の編集に携ってこられました。この度、二十周年の大会も記念誌の発行も無事終了したことを機に事務局と森林文化センターへ移すことになりました。

本当に長い間ありがとうございました。今後とも相変らぬ御協力、御文誼の程お願い申し上げます。

【事務局からのお祝い】

六月から巨樹の会の事務は、「石川県林業技術協会」が取扱うことになり、事務引継ぎを行いました。事務所も下記に変わりました。

創立以来二十周年も事務局を務め会の発展を支えた田中会長ご夫妻のご苦労に心から感謝申し上げます。

なお、新事務局は、会員の三浦、平田、林の三名が担当しますのでよろしくお願い致します。

また、不在の時などは、田中会長又は三浦の自宅へご連絡下さい。

○田中敏之

〒九二〇〇一〇二〇九

金沢市桜町一五二二七

TEL・FAX〇七六一三三一一〇五六六一

○三浦敏夫

〒九二二一八〇四四

金沢市米泉町九一五四一三二

TEL・FAX〇七六一二四三二四二九三

◆創立二十周年記念誌

「石川の巨樹・巨木林」

一冊 一、五〇〇円(送料込)

で頒布中です。

申込先

石川県巨樹の会事務所(左記)

又は 田中敏之宅(上記)まで

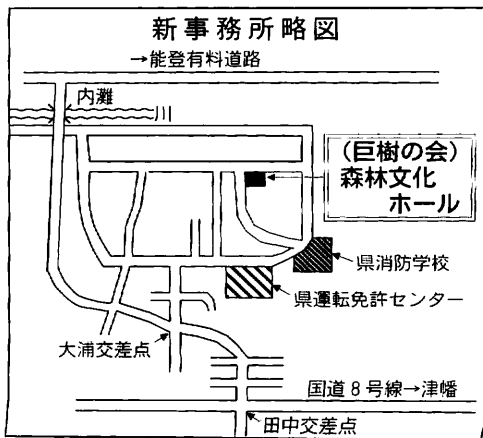


Table with membership fees: 一般会員 3000円, 法人会員 10000円, 購読料 1口 5000円

巨樹いしかわ第三九号

平成二十年八月一日発行

〒九二〇〇一〇二〇九

金沢市東蚊爪町一三三一一 森林文化ホール・林業技術協会内

石川県巨樹の会

TEL 〇七六一三三九一四六三三 FAX 〇七六一三三七一六〇〇四